

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(令和3年7月解析分)

1 今月のトピックス

■ 今夏の大雨発生時の避難所・復旧作業で注意すべき感染症について

この度、国立感染症研究所は、最近の感染症発生動向も踏まえ、今夏の大豪雨や台風などの大雨発生に伴う避難所、ボランティア作業で注意すべき感染症について取りまとめました。

疾患名	状況	リスク評価	対策
COVID-19	避難所での感染拡大 (特に共用施設)	高 生活の場を共用すること、密な空間で感染リスクが高い。特に重症化しやすい高齢者や年齢を問わず基礎疾患のある方の感染を防ぐため、避難所共用施設での感染予防、体調不良者の早期発見が重要。	共用施設の消毒、換気、健康観察、有症状者の隔離・早期受診体制の確保
	ボランティアによる持ち込み	高 流行地域から持ち込まれるリスクあり。	ボランティアの健康観察、ワクチン接種状況の確認
呼吸器感染症	避難所での感染拡大	中 インフルエンザは流行期ではなく、発生が少なくリスクは低い、RSウイルス感染症が全国的に流行しており、特に乳幼児に注意が必要。	飛沫感染対策の徹底
感染性胃腸炎	避難所での感染拡大	中 季節柄、食中毒が起こりやすい。炊き出し、配給などから食中毒が発生するリスクがある。	適切な食品、衛生管理
麻疹・風しん	避難所での感染拡大	低 集団での感染拡大はありうるが、国内での発生がほぼ無く、発生リスクは低い。	通常の感染対策の継続
レジオネラ	避難所での感染拡大 ボランティア等作業中の感染	中 循環式浴槽や貯水が共用使用されている場合にリスクあり。ボランティア等作業時に曝露のリスクあり。	口に含まない、消毒の実施、肌の露出・素手作業の回避
破傷風	ボランティア等作業中の感染	中 土砂災害の救援作業で外傷のリスクあり。ボランティア作業従事者は定期接種世代が多いと想定。	肌の露出・素手作業の回避、ワクチン接種
レプトスピラ	ボランティア等作業中の感染	中 大雨被害の後で汚水に触れる作業が発生するリスクがある。	肌の露出・素手作業の回避
日本紅斑熱 ツツガムシ病 SFTS	ボランティア等作業中の感染	中 夏期の屋外作業であり、疾患の発生リスクがある。	肌の露出・素手作業の回避、ダニ刺傷への注意喚起

(出典 国立感染症研究所)

■ 新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難

- 緊急に避難しなければならない場合に備えて用意しておく「非常時持ち出し品」の中には、マスク、消毒液、除菌シート、体温計なども加えておきましょう。
- 避難所において体調不良の場合は、我慢せず、すぐに受付に相談しましょう。

■ 上記の感染症の県内発生状況については県ホームページから確認できます。

- RSウイルスやインフルエンザ、感染性胃腸炎については週ごとに、4類感染症（レジオネラ、レプトスピラ、日本紅斑熱、ツツガムシ病、SFTS）や5類感染症の一部（麻疹、風しん、破傷風）については月ごとに、県内の発生状況が県ホームページから確認できます。



広島県 感染症 発生状況

検索

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和 3年 6月分(令和 3年 6月 7日～令和 3年 7月 4日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	0	0.00	0.02		10	ヘルパンギーナ	43	0.15	0.92	↑
2	RSウイルス感染症	421	1.46	0.14	↗	11	流行性耳下腺炎	38	0.13	0.27	↗
3	咽頭結膜熱	195	0.68	0.68	↗	12	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.03	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	62	0.22	2.17	↓	13	流行性角結膜炎	17	0.22	0.86	→
5	感染性胃腸炎	948	3.29	5.18	↘	14	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
6	水痘	21	0.07	0.26	→	15	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	
7	手足口病	21	0.07	2.25	↗	16	マイコプラズマ肺炎	0	0.00	0.16	
8	伝染性紅斑	5	0.02	0.28		17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	103	0.36	0.44	→	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.02	0.05	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和 3年 6月分(6月1日～6月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	80	3.48	2.48	↗	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	52	2.48	3.00	↘
20	性器ヘルペスウイルス感染症	21	0.91	0.98	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	0.14	0.31	
21	尖圭コンジローマ	16	0.70	0.86	↘	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.03	
22	淋菌感染症	33	1.43	0.80	↗						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)
 ※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5~2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)
 ○急増疾患 **ヘルパンギーナ** (0.03 → 0.15)
 ○急減疾患 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎** (0.43 → 0.22)

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1~11	12, 13	19~22	14~18, 23~25	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	26	結核(26)〔西部東保健所(1), 東部保健所(6), 広島市保健所(7), 呉市保健所(5), 福山市保健所(6), 北部保健所(1)〕
三類	12	腸管出血性大腸菌感染症(12)〔広島市保健所(8), 福山市保健所(1), 東部保健所(1), 北部保健所(2)〕
四類	26	E型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕
		レジオネラ症(13)〔広島市保健所(7), 西部東保健所(2), 東部保健所(3), 福山市保健所(1)〕
		重症熱性血小板減少症(2)〔呉市保健所(1), 北部保健所(1)〕
		日本紅斑熱(10)〔呉市保健所(3), 広島市保健所(1), 西部保健所(1), 東部保健所(4), 福山市保健所(1)〕
五類	35	ウイルス性肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症(5)〔呉市保健所(1), 広島市保健所(2), 福山市保健所(2)〕
		クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔北部保健所(1)〕
		ジアルジア症(1)〔西部東保健所(1)〕
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症(7)〔広島市保健所(6), 西部保健所(1)〕
		梅毒(19)〔呉市保健所(3), 広島市保健所(4), 西部保健所(3), 東部保健所(5), 福山市保健所(4)〕
百日咳(1)〔広島市保健所(1)〕		
新型インフルエンザ等感染症	760	新型コロナウイルス感染症(760)〔広島市保健所(547), 呉市保健所(24), 福山市保健所(29), 西部保健所(81), 西部東保健所(65), 東部保健所(4), 北部保健所(10)〕